



ゆずっこ

福島市立御山小学校
学校だより NO. 4
令和6年7月2日(火)
発行者 校長 高澤 里美

今年4月から高学年の仲間入りを果たした5年生73名は、とてもエネルギッシュな子どもたちです。今年度初めて、2クラスなったこと、担任が変わったことなど、大きな環境の変化もあって、落ち着かない様子で過ごしていました。そんな5年生が大きく成長しました。

5年生の成長 - 2泊3日宿泊学習 -

宿泊学習へ出発する朝、ある子どもが「一人でよそに泊まるの初めてなんだ。さびしい」とつぶやきました。子どもたちは、それぞれ、これから始まる行事への期待と不安を抱いていました。



茶臼山登山(1日目) 雨は上がっていましたが、強風。様子を見ながらの登山のスタートです。風のせいで体感温度も低く、慣れない山道…泣きそうな子どもたちの写真が送られてきました。安全を最優先とし、早めに切り上げて下山しましたが、自然が見せる厳しさを実感しました。つらい気持ちを奮い立たせてくれるのは、そばにいる友達の存在であることを知ったのです。

夜 先生の見回りをやり過ごしての友達とおしゃべりはとても楽しい、けど…2段ベッドに横たわり暗い天井を見上げたとき、家族がそばにいない不安は最高潮に達します。平気なふりをして目をつぶってもなかなか寝付けない子どもも多いのです。いつも家族が与えてくれている安心感を実感するのが夜です。

野外炊事(2日目) 朝食を済ませたと思ったら、すぐに昼食の準備に取りかかります。なんとといっても火をおこすところから、食事作りの全てを自分たちの手で行わなければお昼ご飯をたべられない！これが、宿泊学習での野外炊事です。救いは、メニューが焼きそばであること。どんな形であれ野菜を切って、炒めれば食べられます。それでも、火起こしに大苦戦。火力の調節がうまくいかず、ちょっとお焦げ色の濃い固焼きそば状態に…子どもたちは、ここで、火がもたらす恩恵、そして、何より、黙っていれば食事が目の前に運ばれてくる日常のありがたさを痛感するのです。



キャンプファイヤー(2日目夜) どこからか舞い降りた教頭先生似の火の神は、人間にとっての「火」というものがどんなに尊く、どんなに危険か……ということを子どもたちに伝えます。炎を見つめていると、普段は元気いっぱいの子もたちも厳かな気持ちになります。

「火」がもっている大きな力を感じるのがキャンプファイヤーです。



宿泊学習 5年生の声をお届けします

茶臼岳登山

その山はかなり高くて雲の動きもいつもよりは速く見えました。上の方に行くと、地面は石や岩がほとんどで足もかなりきつく、道もデコボコでした。さらに、霧もあってかなり風も強かったのも、山頂まで登ることができず個人的にはとても悔しかったのをよく覚えています。

茶臼岳を登ってみて、3年生に登った信夫山と比べて、とても違いました。(5-2児童)

朝のつどい・夕べのつどい

↑この集いで各団体の紹介をします。

御山小学校の紹介をした人たちが、他の団体の人たちにも(御山小の)魅力を伝えられるようにがんばってくれたなあと思いました。

(5-1児童)

キャンプファイヤー 感謝・友情・協力・努力の火

キャンプファイヤーでは、神様から火をもらいました。

スタンツ(各班のパフォーマンスの発表)がきちんとできるか心配でしたが、できてよかったです。私たちの班は、「ツバメ」と「ビリーブ」を歌いました。1番盛り上がりとても嬉しかったです。

(5-2児童)

だるまの絵付け体験

だるまの目をかくときは、だるまから見て左から書くと教わりました。また、左目を書くときは、願い事をしながら書くと(いうことを)知りました。ぼくが、だるまに込めた願いが叶うといいと思います。(5-1児童)

学校に戻ってきてからの5年生は、表情が違います。友達と力を合わせ、困難を乗り越えた自信と家族の存在をそばで感じる安心感を握りしめ、毎日の学校生活を充実させています。

先日、授業を見にいくと、一人一人が自分の課題を解決するために、集中して学習している姿がそこにありました。

「5年生の成長」を確かに見ました。

【お知らせ】—ご寄付いただきました—

先日、御山小学校を10年ほど前に卒業した吾妻大輔さんの保護者様から、ビニール傘をたくさんご寄付いただきました。

不意の雨の時に、子どもたちへ貸し出す置き傘として活用してほしいとのことでした。今はちょうど梅雨(とは思えない暑さですが(^0^;))ありがたく使わせていただきます。

こうして、卒業してからも、ふとした瞬間に御山小学校で学ぶ子どもたちのことを思い出してくださる方がいらっしゃることもとっても嬉しいです。

